

## 強靱な県土づくりの実現に向けて

### 1. はじめに

大分県は、九州の北東部に位置し、北は周防灘と福岡県に、西は阿蘇火山の東斜面を境として熊本県に、南は祖母傾連山にて宮崎県と隣接し、東は伊予灘、豊後水道に面しています。

地形的な特徴としては、県北の耶馬溪に代表される、侵食の影響により多くの谷が形成された地形や、久住・飯田の高原地形、祖母傾の山岳地形、そして大分市佐賀関から佐伯市蒲江に至るリアス海岸地形などがあげられ、県全体として風光明媚な土地となっています。

さらに、宇佐神宮等の貴重な歴史的文化遺産など多くの地域資源もあります。

また、何とんでも県内各地に広がる温泉は、日本一の湧出量と源泉数を誇り、地球上にある10種類の泉質のうち8種類を有しています。

加えて、豊かな自然で育まれた新鮮で安全な食材、関あじ・関さば、おおいた和牛などの高級食材をはじめ、かぼすやしいたけなど四季折々の素晴らしい食材も満載です。

### 2. 強靱な県土づくりの推進

県内では、南海トラフ地震やこれまで経験したことのない集中豪雨など、大規模自然災害によって重大な危機が発生した場合において、十分な強靱性を発揮できるよう、県土づくりを進めています。

このうち、今回は来年（令和6年）1月に開催

される建設技術講習会の現場研修会で対象となる事業についてご紹介します。

### 3. 越水に対して粘り強い河川堤防の整備（事業主体：国）

気候変動により洪水による被害がさらに頻発化・激甚化することが想定される中で、従来から進められてきた洪水時の河川の水位を下げ、洪水を安全に流すための治水対策が基本です。

さらに、治水施設の能力を超える洪水に対しても、越水による決壊までの時間を少しでも長くし、被害をできるだけ減らすための効率的・効果的な対策が必要なため、国土交通省が「粘り強い河川堤防」をパイロット施工として、大野川・大分川で実施しています。

このうち、大分市大津留地区においては、昭和18年の堤防決壊や平成29年9月の台風第18号洪水等による河岸侵食の状況を踏まえ、大津留地区堤防強化事業として堤防の強化を実施しています。

### 4. 津波避難場所の整備（事業主体：大分市）

また、30年以内に70～80%の確率で発生が想定される南海トラフ地震においても、早期の対策が必要です。

通常、津波避難は浸水想定区域外への避難が基本ですが、津波到達までに安全な場所に避難できない地域住民や、公園利用者が緊急的に避難する場所として、大分市が津波避難場所（人工高台）



大分県知事 **佐藤 樹一郎**

の整備を進めています。

現在、大分市家島地区において、家島命山として標高10m、収容人数400人の整備を進めており、災害時には多目的な利用が可能となる防災パーゴラや防災ベンチの設置なども行っています。



大分市家島地区（家島命山）

## 5. 中津日田道路の整備（事業主体：国・大分県）

中津日田道路は、重要港湾中津港から日田市に及ぶ延長約55kmの高規格道路であり、大分自動車道や東九州自動車道と連結し、福岡市や北九州市、大分市などを結ぶ循環型ネットワークを形成するもので、現在22.8kmが供用済みであり27.3kmで事業中です。

本道路の整備により、物流の効率化、広域観光の促進及び災害時のリダンダンシーの確保が期待されています。

平成24年、平成29年の九州北部豪雨や令和2年7月豪雨では、中津市から日田市を結ぶ国道

212号が各所で被災し、通行止めとなりましたが、一部供用済の本道路が迂回路となり、まさに「命を守る道」として機能しました。

本道路のうち、12.8kmの三光本耶馬溪道路は直轄権限代行区間であり、田口ICから青の洞門・羅漢寺IC間の5.3kmが今年度開通の見通しです。

本県が整備を進めている17.3kmの区間においても、トンネルなど大規模工事が本格化しており、早期の全区間開通を目指しています。



中津日田道路（耶馬溪道路：令和2年度開通）

## 6. まとめ

今後も、誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指し、強靱な県土づくりの実現に向けて努めてまいります。

来年1月には、（一社）全日本建設技術協会主催の建設技術講習会が本県で開催されます。

昭和24年に第1回講習会が開催され、今回が記念すべき第700回目となります。前述した取組の講演、現場研修が実施されますので、多くの皆様のお越しをお待ちしております。